

# 甲状腺外科草子 113

## 藤堂高虎の遺訓：高山公二百ヶ条①

杉野圭三

藤堂高虎は子孫に膨大な遺訓を残した。後世、高山公二百ヶ条と呼ばれるものである。高虎は戦場で無数の傷を負い、手指も不自由で家臣に口述筆記させたものと伝わる。このため、重複する内容もあり重要部分のみ記す。



藤堂高虎



遺訓二百ヶ条

【可為士者常之覚悟之事】(サムライの覚悟)

第1条 寝屋を出るより其日を死番と可得心かやうに覚悟極るゆへに物に動する事なし是可為本意(寝室を出る時から、今日は死ぬ番だと心に決めること。その覚悟があれば、物に動じない。本来、こうあるべきだ)



津城公園内の高山公遺訓の石碑

津城の公園内にはこの高虎公遺訓第一条の石碑が寂しく飾られている。

第2条 常々諸事に心を附 嗜深き人ハ自然の時手にあへはされはこそ心かけ深き故士の本意をとけたるとのきたにあふ もし不仕合にて手にあはさる時も常に心かけ深き人なれとも不仕合 是非なしと取きたなり 善悪の時外聞をすゝぐ 是徳にあらずや(常に心配りがありたしなみ深い人は、戦功があれば、「さすがに心がけがいいから侍の本分を遂げた」と言われ、失敗しても、「常に心がけのいい人でも失敗したのは残念」とされる。良しにつけ悪しにつけ、聞こえがいい。是は人徳だ。)

第3条 常に物毎由断に覚たる人ハ自然の時手にあひたるとも大ののみたるへしといふ又手にあはさる時ハ常に心かけなき人なれば尤嘲をうくる是面目なき事なり(常に油断だらけの人は、戦功があってもたまたまであると言われ、失敗した時はあざけりを受け、面目を失う) 戦場の功績や評価も普段からの心がけ次第!

第4条 出陣の時敗軍すると覚悟尤の事なり 勝軍の時ハ不入若負軍の時うろたへ間敷ためなり(戦いの出陣の時には、負ける覚悟をしておくのは当然だ。勝ったときには不必要だが、負けたときにうろたえないためである)

【家来常々召仕様之事】(家来の召使いかた)

第11条 第一情をかけ諸事見のかし候事肝要也大それたる事有之時は其身の因果たるへし理非を以可申付然れ共助て不苦品あらは其儀にもとうし可然切ル手遅かれと申伝たり

(家来には情をかけ、諸事見逃してやるのが肝要。大それたことがあった場合は自分の因果と思うしかない。理由をつけて申し伝えるべきである。助けてもよいのであればよく考えてそのようにして、切るのは遅くてもいいと申し伝えている)

第12条 家人に禄をとらせたる分にてハ思ひつかす奉公する上下禄ハ相応に取へし是大体也とかく情にて召仕へは徳多し一言にて命を奉る是情なり禄多くとらするとも命をすつほどの事ハ有ましきか深く情をかけむとおもふ主人ハ用にも可立歟第一本意たるへし

(家来に給与を与えるのに、ひいきをしてはいけない。奉公人の給与の多寡はそれ相応に行なうべきだ。とかく、情をもって召し使えば徳が多い。一言にて命を預けるのは情によるものであって、給料を多く払ったところで命を捨てる程のことはないだろう。深く情をかけようと思う主人は物の用にも立つだろう。これが本意の第一である)

高虎の寛容さが良く分かる！次回に続く。

参考資料：藤堂高虎公と遺訓二百ヶ条、Wikipedia (一甲状腺外科医の徒然なる随想)

2024年9月19日